

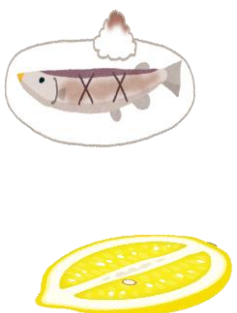
令和五年度 垣生中俳句会（十月） 入賞作品

金賞

焼き魚初めて挑む檸檬汁

三年

「焼き魚に檸檬」は、大人にとっては乙な味ですが中学生にはまだちよつとハードルが高いのでしょうか。作者は、そこに挑戦したのですね。さて、その大人の味の感想や如何に。垣生中の先生方は、秋の焼き魚の定番、秋刀魚を想像し、ほほえましい食卓を思い描いたのでしょうか。大変多くの先生方の票が入りました。因みに「檸檬」は秋の季語です。



銀賞

天高し勝利を誓う青の旗

一年

秋の空は、澄んでいて高く感じます。それを表現する季語には「秋高し・秋高（しゅうこう）・天高し」があります。文語調のこの季語に勝利を誓う勇ましい思いが重なり、きりつとした雰囲気醸し出しています。「青の旗」ということは、「青龍」、優勝したブロックですね。作者の誇らしい気持ち伝わってきます。  
く天高し相撲の大鼓鳴り渡る 正岡子規く



銀賞

責務終え見上げる空は天高し

三年

生徒会長、雷神ブロック長という重い責務を成し遂げた清々しさが伝わってきました。「責務」という漢語が、この句に格調を与えていますね。勝敗にこだわり、とことん戦った人だけが感じられる充実感、そして解放感。誰が見るよりも、その空は澄み渡り、高く見えたことでしょうか。

## 銅賞

柿食べる祖母の横顔母に似て

三年

視点がユニークですね。親子のDNAは不思議なもので、顔かたちのみならず、しぐさや雰囲気も受け継いでいたりします。作者も、何となく見ていた祖母の横顔に母親のそれが見えたのでしよう。その一瞬を巧みにとらえて句にしたところがあつぱれです。

## 銅賞

青蜜柑すっぱくないかと聞いてくる三年

兄弟か、親か、友人か・・・誰が聞いてきたのでしよう。そこから楽しい想像がふくらむ句です。秋の訪れを告げる青蜜柑は独特の酸味がありますが、またそこが美味しいのだと言う人もいます。美味しそうに秋の果実を楽しむ作者に、酸っぱそうな顔で聞いてきたのでしようね。この句もおもしろい視座からの作です。

## 銅賞

不退転土踏みしめる蜻蛉かな

三年

「不退転」とは、信念を持ち何事にも屈しないという意味です。作者は何か決意するところがあるのでしょうか。この強い言葉を初句にもって来たことで句が引き締まりました。自分の決意と、土を踏みしめる蜻蛉とを取り合わせています。一見無関係に見える二つの事柄を繋げて俳句を作ること「取り合わせ」といいますが、それが成功した句と言えるでしょう。

## 入選

秋時雨 雨の音色と走る音

一年

銀杏（いちょう）の木上から下までグラデーション

一年

運動会対抗リレー一走り

一年

芋炊きを食べる感じる祖母の味

一年

ふと香る祖母と見つけた金木犀

二年

ラケットふる頭上に広がる鱗雲

二年

曾祖母の新米光る茶わんかな

二年

つかみどり赤くそまる手栗祭り

二年

栗飯をつくってほしいと頼む夜

三年

風強し土手を覆う赤蜻蛉

三年

無花果が丸い形に詰まってる

三年

紐結び呼吸合わせる百足走

三年

欠席の友を想う鱗雲

三年

虫の夜のカチツと響く多色ペン

三年

いつもより大きく見える秋の月

三年

